

## ■CIS各地報告

### <インド>

日程	2014年9月14日(月)～28日(日)14日間
場所	・ISGEC Hitachi Zosen ・インド工科大学
参加者	・大阪大学:工学研究科2名 外国部学部2名 ・インド工科大学:工学部大学院2名 社会学1名 心理学1名
引率者	大阪大学4名

### <概要>

研修は、総合的課題の「多文化、多言語環境におけるコミュニケーションの課題と対策」に基づいて進められました。企業実習では、幹部の方々からの経験談を交えた講義、各部署の訪問と説明など基本的な研修項目に加え波止場の見学、溶接作業等も。また文化交流としてヴァドーダラーとアーメダバードを訪問し、歴史的旧跡や商業地区等を見て現地の文化に対する知見を深めました。

学生たちは、それらの活動から企業における社員や部署間の意思の疎通やそれらの企業活動への影響などに着目し意見交換を行いました。また、チームごとにアンケートを作成して、日本人社員・インド人社員を対象に調査を行いました。同じ質問を日本人社員、インド人社員に口頭で行うことにより両者の意識の違いが鮮明になる場面もありました。

ジョイントベンチャーでのマネジメントの実際、インド人社員と日本人社員の仕事・人生・家族などに対する意識の比較などで、学生たちには多くの発見があり、それらを課題と解決法というかたちで報告書にまとめ発表しました。

最終報告書では、A チームは、企業側とのインタビューなどを通じて得た情報から、合併後の成果と問題点をまとめ、問題点については具体的な職場内組織の改善策を提案しました。B チームは、アンケートからインド人社員とは文化やものの考え方が異なることに気づき、それらを踏まえて労働のモチベーションを高める工夫などを提案し、企業側も大きな関心を示しました。

さまざまな意見交換や交流の場を通じて、多言語、多文化環境の中でのコミュニケーションについて貴重な体験を積むことができたと思います。

次回への課題としては事前準備の必要性を痛感しました。特にインド人学生において

テーマの理解が不十分であり疑念を抱いていました。スカイプなどを使って双方の学生同士が意見交換を行い、テーマについての理解や認識を共有する機会があればより良いと思われます。